

青雲

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。

18号 2016.3

発行人 一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

「青雲」

—— 題 字 ——

前島根県知事 澄田信義氏



『新しい力』

太平洋戦争において敗戦した日本。全土が焦土と化し甚大な損害を被りながらも、高度経済成長を成し遂げた。21世紀に入り、快適な生活環境重視の中、経済不安・環境問題等様々な弊害が生まれた。地球全体が温暖化に悩まされている現在ではあるが、オゾン層破壊の原因となるCO₂削減のため風力発電・太陽光発電などの新しいエネルギーが誕生し、今後も更に「新しい力」の研究・開発が進んでいく。我が青年部会も「新しい力」となれるよう精一杯邁進していきたい。

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

青雲

18号 2016

contents

- ◆巻頭言／「魅力発信！」
一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会①②
部会長 梶野直宏
- ◆～次世代建設就業者育成事業～
次世代建設就業者育成事業の背景と目的③
現場見学会・意見交換会の概要③
斐伊川新田川に於いて現場見学④
斐伊川放水路に於いて事業説明⑤
建設機械搭乗体験⑤
意見交換会⑥
テレビ放送・新聞記事掲載⑦
アンケート結果⑧～⑪
出雲農林高校生の感想文⑫～⑮
次世代建設就業者育成事業を実施して感じること(考察).....⑯
- ◆平成27年度事業報告
＜地域貢献事業報告＞
2015道路清掃⑰
地域貢献委員会 委員
(株)御船組 御船善弘
＜経営研究事業報告＞
2015意見交換会⑱
経営研究委員会 委員
(有)川角建設 川角宣広
- ◆平成27年度卒業生より一言⑲～⑳
 (株)トガノ建設 梶野直宏 (有)ナギラ建工 加納 悟
 (有)西尾組 西尾 仁 (株)日野組 日野敏行
 中国道路整備(株) 浅津和人 (株)フクダ 船木博之
 昭和開発工業(株) 荒木克之 (有)間壁組 間壁和弘
 (有)山根建設 山根 強
- ◆平成27年度新入会員紹介㉑
 (株)ダイニ 江角洋介
 岩成工業(株) 西村善文
- ◆土木の日に参加して㉒
 会員交流委員会 委員長 三原 惇志
- ◆編集後記㉓
 総務広報委員会 副委員長 青砥 正人

魅力発信！

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会
部会長 梅野直宏



2016年3月11日で東日本大震災から5年が経過しました。震災で犠牲になられた方々に対しまして、衷心より哀悼の誠を捧げたいと思います。そして、被災地の一日も早い復興は、日本国民の願いです。

政府は、平成27年度までの5年間を集中復興期間と位置づけ、官民一体で復旧・復興事業を展開し、被災地は着実に復興への道を歩んでいると思います。しかしながら、未だ約19万人以上が避難生活や仮設住宅での生活を余儀なくされるなど、復興へは道半ばの状況であり、継続的な政策が望まれるところです。また、我々建設業界にあっても、インフラ整備の担い手として、新しい町づくりなどに先頭に立って取り組むことが必要だと思えます。

公共工事は、悪というように言われる時代もありましたが、災害時や除雪への対応、雇用を含めた地域経済への寄与という面から地域のみなさんの建設業界への意識や品確法の改正など建設業界を取り巻く環境も大きく変化してきています。

2020年東京オリンピック開催が決定し、東京を周辺とする都市部では設備投資が進み、さらにリニア工事も着工され建設工事が沢山発注されています。その結果、建設就労者は都市部に集中し地域での人手不足が懸念されています。さてそのような中、技術者・技能者の高齢化が進み、特に地域建設業では担い手不足が問題となっています。県内においては、公共工事の急激な減少に伴い、経営が悪化、人員整理と採用の抑制が続いたことで、就業者は平成16年から平成26年の10年間で約28%減少しています。中でも若い人材の入職は減少傾向が続いており、特に中山間地域では厳しい現状です。建設業が適正な利益を得て経営基盤を安定させ、将来的見通しをもって労働環境の改善や人材育成に取り組むことで、「夢のある産業」としての魅力を高め、継続的に人材確保出来る好循環を形成することが重要であると考えます。その為に大切なことは、私たち一人ひとりが誇りと自信をもって仕事することだと思います。そこで専門高校生に対して現場体験を実施し、直接仕事のやりがいや誇りを伝えていきます。今後の展開としては、小学生・中学生に対して早い段階から建設業の魅

力発信を実施していこうと計画しています。いずれにしてもこの問題は、粘り強く継続性が必要だと思います。青年部会としては、問題解決に向けて全力で取り組んで参ります。

さて、我々地域建設業は良質な住宅や道路・橋などの社会資本の建設を通して、地域の「安心」・「安全」を守ることが責務です。ひとたび災害が発生すれば、昼夜を問わず命懸けで復旧作業に当たり、また冬期では厳寒に耐え、真夜中より除雪作業を行い、早朝の交通確保にあたっております。さらに技術集団として研修会や研究会などを実施し、建設技術の向上に向けて努力しております。そして情報化施工など最新技術への対応を推進し、品質管理・責任施工体制などの確立と、環境保全にも最大限の努力を図り、一層信用が保たれるよう努めています。

最後になりますが、島根県出雲地区建設業協会青年部会は関係各位と一致団結して、建設に関わる諸課題に取り組む所存でございますので、引続き、ご理解ご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。



このロゴマークは、建設産業のイメージアップを目的としたロゴマークです。

次世代建設就業者育成事業の背景と目的

1995年（平成7年）1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、今年で20年の節目を迎えました。この震災は各地で人的あるいは社会的に甚大な被害を及ぼし、被災直後の災害復旧、その後の破壊された道路や橋、鉄道、さらに町並みの復旧と復興に果たしている土木工事、建築工事の役割の大きさを見て、多くの人々が建設関係産業の重要性を再認識させられました。また、そこで働く多くの建設技術者、作業者の責任感と担っている社会的責務は、偉大なものであることに気付かされました。

現在、建設投資の大幅な減少等を背景に、建設業就業者の高齢化・若年入職者の減少が進んでいます。建設業の持続的な発展を図るためには、将来を担う技能労働者や技術者を確保・育成し、次世代への技能・技術の承継を図っていくことが喫緊の課題となっています。

このため、将来の建設業の担い手となる若年者に建設業の魅力を発信するとともに、建設業への就業促進と人材確保に向けた取組みを官民連携して行っているところです。

その取組みの一環として、建設業の重要性、魅力などを再認識してもらい、建設業への入職促進に繋げることを目的として、出雲市内の出雲農林高等学校の2年生を対象に現場見学会・意見交換会を開催しました。この事業は3年目を迎えますが、参加した生徒の皆さんが建設の仕事について理解を深め、意欲を持って建設関係の職業に就き、期待される若い人材として育っていくことを期待したいと思います。

現場見学会・意見交換会の概要

- 学校名 島根県立出雲農林高等学校 ● 開催日 平成27年11月6日(金)
- 現場見学参加者 環境科学科2年生19名、教員3名

8:30~8:50	出発 出雲建設会館 ⇒ 着 農林高校
9:00~10:40	オリエンテーション(車中) ・榎野部会長挨拶 ・スケジュール紹介(大野委員長) 出発 農林高校(9:00) ⇒ 着 工事現場(9:30) 発注者:国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所 工事名:斐伊川新田川背割堤整備第2工事 受注者:株式会社 中筋組 担当者:出雲河川事務所 平田出張所 所長 神庭浩司様 株式会社中筋組 現場代理人 大輝大介様
10:45~11:50	出発 工事現場(10:45)⇒ 着 斐伊川放水路(10:50) 出雲河川事務所による放水路事業説明 担当者:出雲河川事務所 石原淳男、浜田健一様
11:50~12:00	出発 斐伊川放水路(11:50)⇒ 着 出雲建設会館(12:00)
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~14:35	出発 出雲建設会館(13:00)⇒ 着 板倉重機ヤード(古志)(13:15) 建設機械搭乗体験 担当者:株式会社板倉重機 持田 充様
14:40~14:55	出発 板倉重機ヤード(古志町) ⇒ 着 出雲建設会館
15:00~16:20	意見交換会 (出雲建設会館) ・開会の挨拶(榎野部会長) ・出雲県土(係長 三上利雄様)の講演 ・若手社員の話(㈱トガノ建設 石原 翔様) ・中堅社員の話(㈱フクダ 足立 良様) ・意見交換 ・アンケート ・閉会の挨拶(内藤副部会長)
16:20~16:40	出発 出雲建設会館 ⇒ 着 農林高校

「斐伊川新田川」工事現場見学 背割堤整備第2工事



出雲河川事務所 神庭所長様より
事業概要の説明を受けました。



(株)中筋組の大輝様より工事概要の
説明を受けました。



タブレットを使用した説明風景



地上から飛びたったドローンに参加者から歓声が!!



インターンシップの体験談を報告する生徒



女性用トイレの広さに
ビックリ!!



テレビのインタビュー
に答える生徒

参加者の声

ドローンを是非
操作してみたいと
思いました



タブレットを
使った説明に
ハイテクを
感じました。



「斐伊川放水路」事業説明



出雲河川事務所 浜田様より
放水路の必要性、施工における
工夫等説明を受けました。



分流堰に接近中!接近中!



お礼に生徒の皆さんが丹精込めて
育てたお花を差しあげました。

「建設機械」搭乗体験



板倉重機様より重機の説明を
受けました。



いざ 搭乗!



参加者の声



説明によって
放水路の重要性を
理解できました

建設機械に
搭乗して
この仕事に
就いてみたいと
思いました



意見交換会

第1部 講演、若手中堅社員の体験談



出雲県土整備事務所 三上係長様より
「建設産業が求める若い力」と題しご講演を頂きました。

若手社員代表
(株)トガノ建設
石原様



中堅社員代表
(株)フクダ
足立様



第2部 アンケート結果をもとにした意見交換会



何年したら現場監督になれますか？



アンケート結果をもとに意見交換会を行い例年以上に多くの意見を交わすことが出来ました

生徒からの質問に答えを悩ます場面もありました



現場見学会を各マスコミに取り上げていただきました!

TSK山陰中央テレビ「情報広場もっと×もっとしまね」 2015.11.25 放送



出雲ケーブルビジョン「いずもキャッチアイ」 2015.11.6 放送



農林高校生が建設現場を見学



建設興業タイムス 2015.11.11 掲載

現場見学会開く



意見交換をする高校生ら＝出雲市塩治善行町

出雲地区建設協青年部会（梅野直宏部会長）は6日、同市内で現場見学・意見交換会を開き、出雲農林高校環境科学科の2年生20人が参加した。

出雲青年部会

国交省発注の斐伊川新田川背割堤整備第2工事（船津町）を見学。現場の担当者が、工事概要のほか、女性専用トイレやドローンによる3D測量など新しい取り組みを紹介。女性専用トイレに、女子生徒は興味を持って見ていた。

意見交換では、「現場の仕事で大切なことは」の質問に対し「段取りと人間関係が大事」と回答。また、「出世に必要なことは」の質問には「まずは目上の人の話を良く聞いて、理解していくことが大切」と答えた。

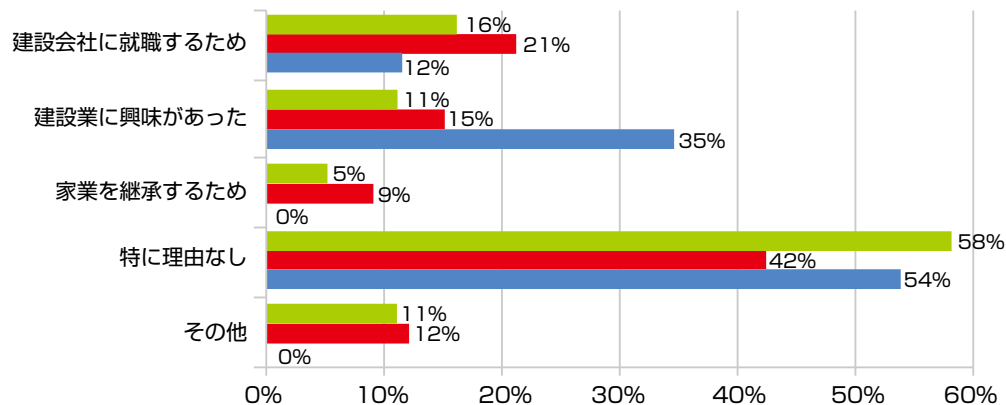
アンケート結果

実施日／対象者

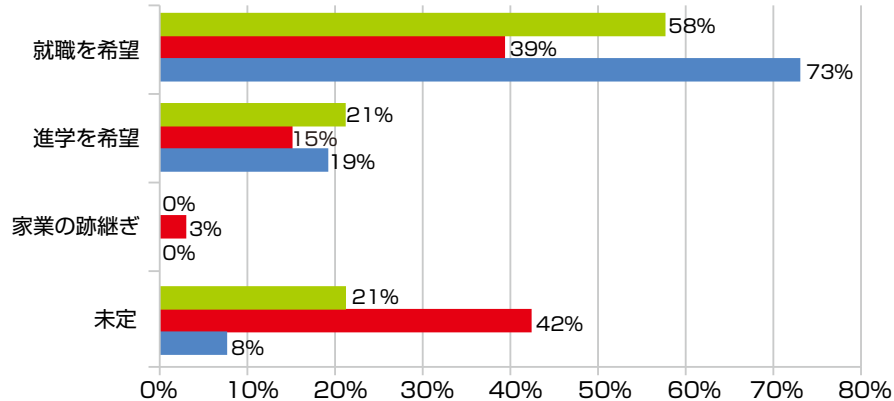
…平成27年11月 6日／見学会参加生徒	19名
…平成26年10月29日／見学会参加生徒	33名
…平成25年12月11日／見学会参加生徒	28名

目的 我々、地域建設業界には、様々な問題が山積していますが、その中の一つに若手就職希望者の減少があります。この問題は若手技術者だけでなく、型枠大工や重機オペレーターなど様々な職種の技能工においても同様であります。このまま建設業就労者の高齢化が進むと熟練工の卓越した技術が若手技能工に継承されなくなってしまいます。これは通常の工事現場の問題だけでなく、災害等が発生した緊急の場合にも同様であり、豪雪時の除雪オペレーター不足は地域住民の方々の生活に密接に関係してくる問題であります。こうした現況を踏まえ、これから我々青年部会が取り組むべき、若手就職希望者の確保・促進に資する事業の参考とするため高校生にアンケートを実施させていただきました。

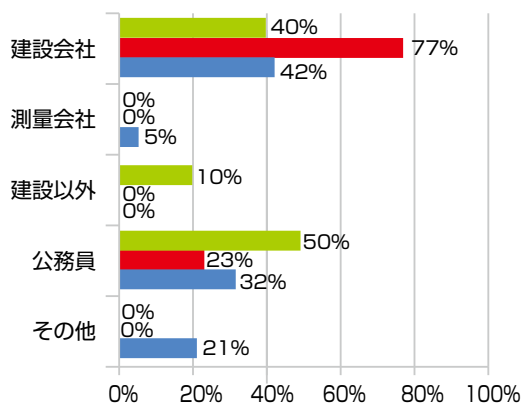
農林高校に進学した理由を教えてください



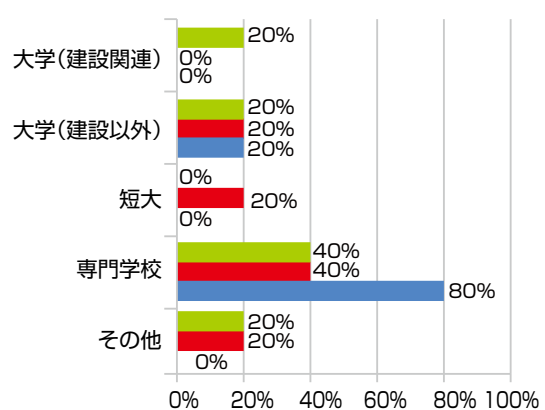
卒業後の進路について伺います



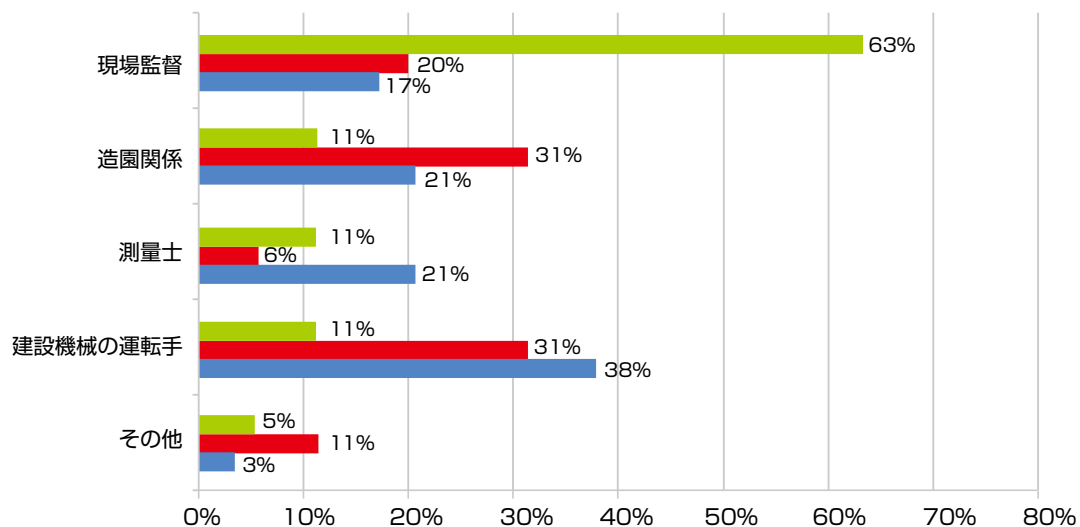
就職を希望した人



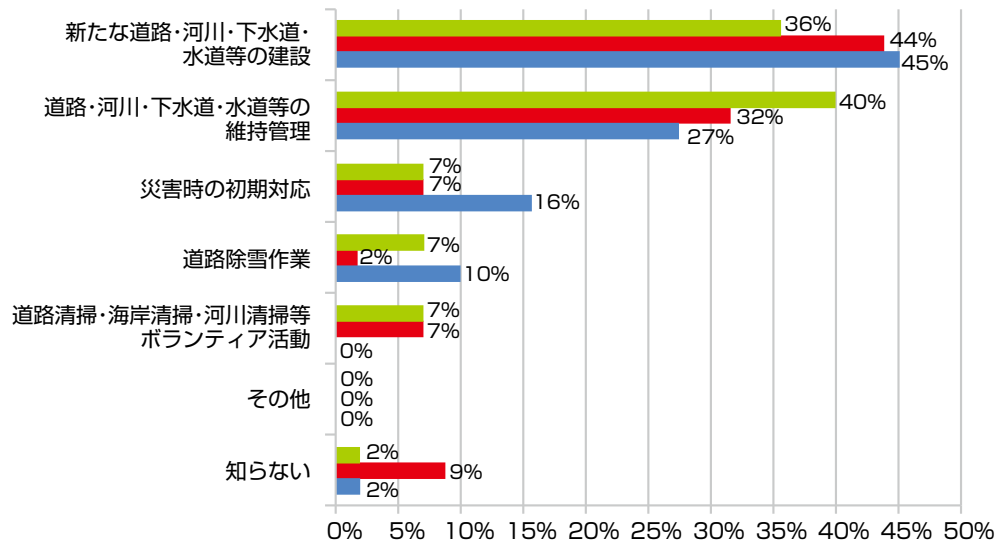
進学を希望した人



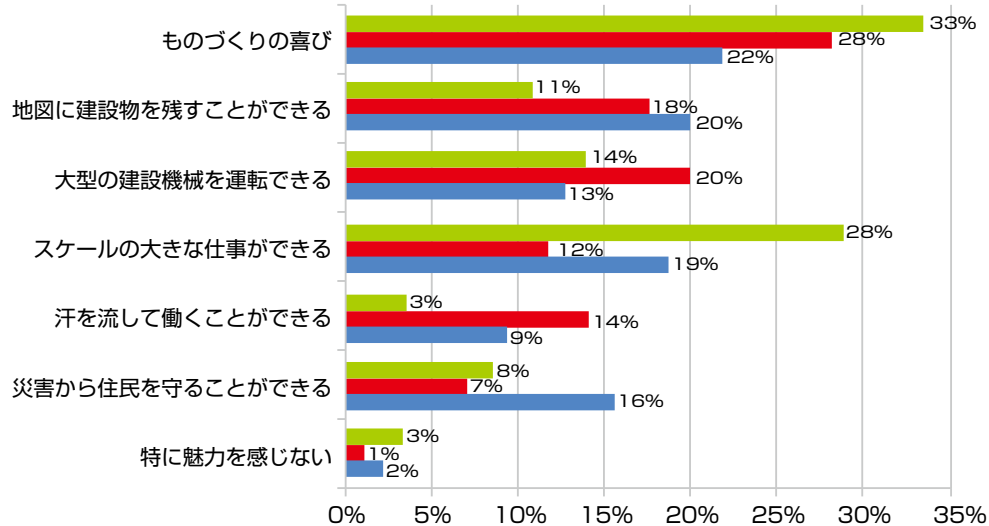
建設関連会社に就職したら、どんな職種に進みたいですか



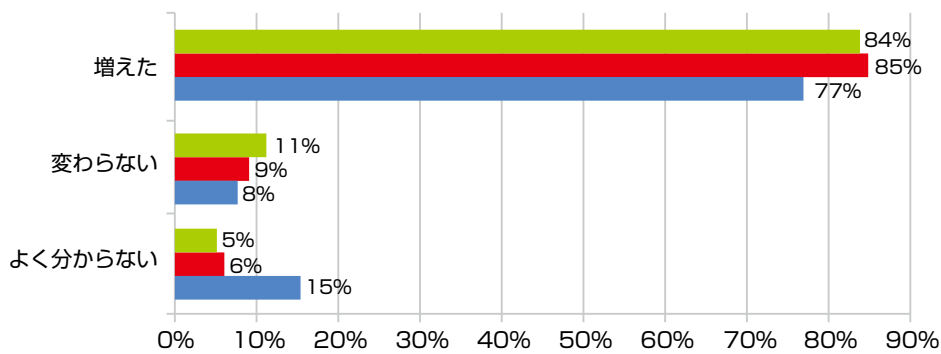
地域の建設業が果たしている役割について知っていますか (複数回答)



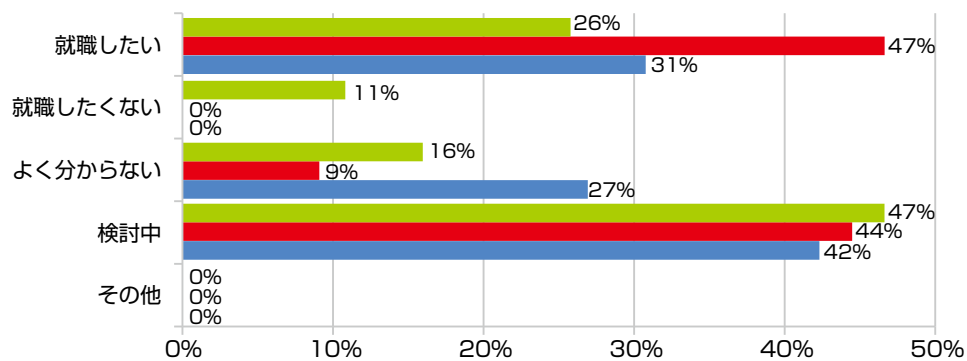
建設業の魅力について感じるものは何ですか (複数回答)



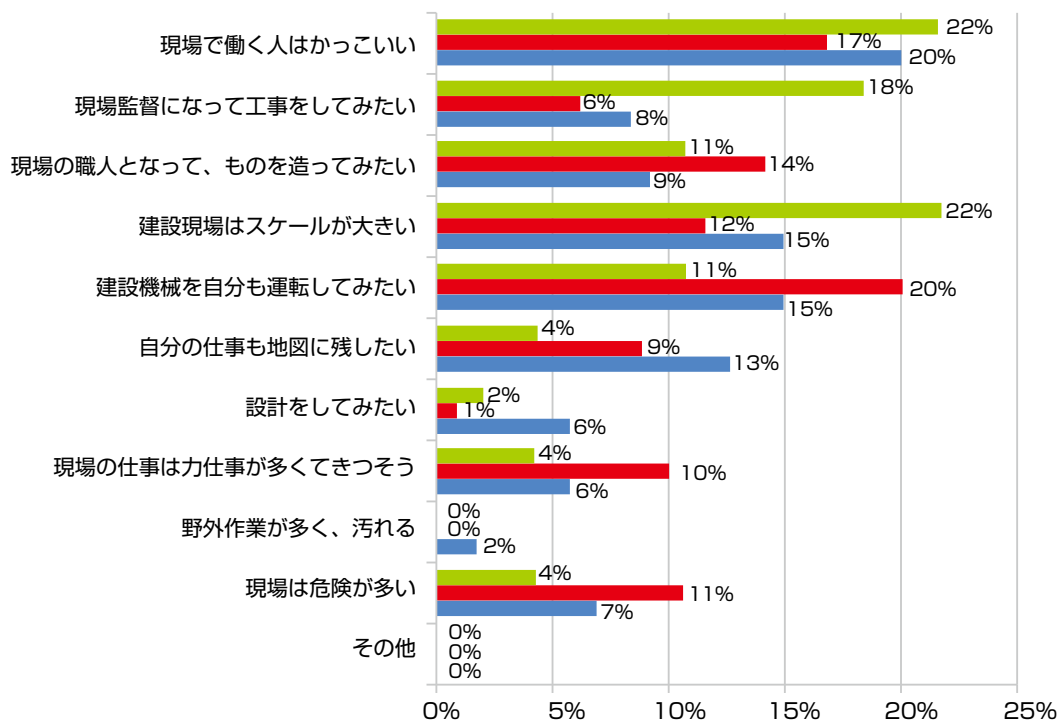
今回参加して建設業の魅力項目は増えましたか



本日の現場見学会に参加して建設業に就職したいと思いませんか

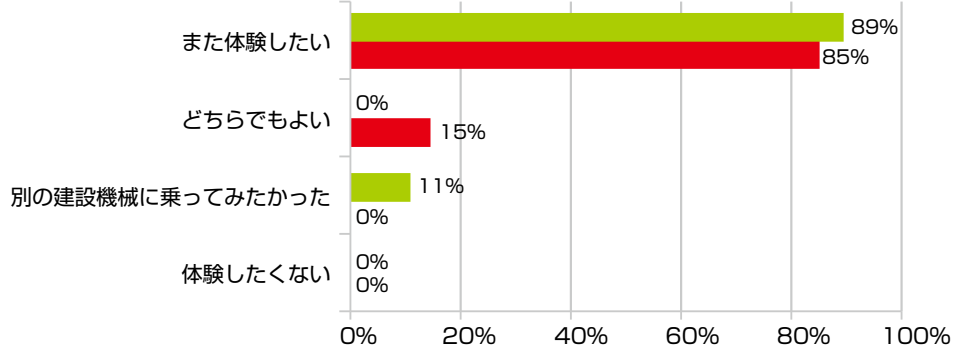


本日の現場見学で感じたことはありましたか（複数回答）



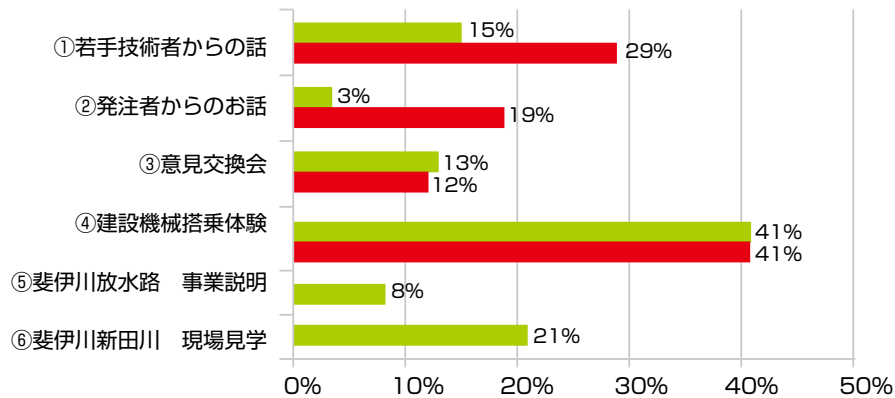
建設機械搭乗体験をしてみたいかがでしたか？

※平成26度、27年度実施



今回参加して印象に残ったことは何ですか。(複数回答)

※⑤⑥は平成27年度のみ実施



アンケート結果(まとめ)

アンケートの中で、「どんな職種に進みたいですか」の質問に対して、過去2年の回答では「建設機械の運転手」が最も多く選ばれていましたが、「現場監督」に変化したことが今回のアンケート結果の特徴の一つとしてあげられます。

従前の現場見学では、現場の責任者から施工中の工事内容の口頭説明や、建設機械の搭乗体験をメインに行っていましたが、今年度の現場見学では、建設機械の搭乗体験の継続実施とともに、ドローンを使った測量方法の実体験や工事内容の説明については生徒の皆さん各々に提供したタブレット端末によるデジタル化など従前より工夫をこらしたことが、現場見学後に行ったアンケート結果に反映したものと思っています。

それに加えて、「(現場見学に)参加して(建設業の)魅力項目はふえましたか」の質問には、今回も8割以上の生徒から「増えた」と回答を得たことは、現場見学の成果の現れでもあります。しかしながら、「建設業に就職したい」の割合が伸びず、昨年の約半分であったことは残念な結果でありました。

今回の結果を踏まえ、建設業への入職促進を図るためには現場見学会の更なる質の充実に併せ、建設業の魅力発信に向けて一層の努力が必要であると痛感したところです。

現場見学会の感想



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 青木 巧

今回の現場見学会では、最新鋭の測量や重機の搭乗体験、建設業界の皆さんとの意見交換会を通して、たくさんの貴重な体験をさせていただきました。その中でも、とても印象に残っていることが4つあります。

1つ目は、測量の見学です。ドローンを使った立体的な図面の作成を見たときは、自分たちが夏休み中に実習で行った水準測量よりももっと効率的で、素晴らしい測量機械があることに大きな衝撃を受けました。そして、とても感心しましたし、もっと測量を勉強したいと思いました。

2つ目は、現場で見た女子トイレのことです。特別に中を見せてもらいましたが、大きな部屋の中にたくさんの個室があり、エアコンまで完備されていて、自分の部屋よりも快適なことにショックを受けました。建設現場は男の場所という偏見を取り除くためにも、素晴らしい試みだと思いました。

3つ目は、重機の搭乗体験です。ダンプトラックに搭乗させてもらい、大きな興奮を感じると同時にこの体験で、大きな建設機械を動かす楽しさと、万が一事故を起こしてしまったときにかかる責任の重さを体感しました。搭乗体験の後に、一流の運転手の方にドラグショベルの運転を見せてもらい、とてもかっこいいと思いました。その後、その方に重機の運転で危なかった体験談を聞かせてもらい、やはりとても危険なものなんだと実感しました。しかし、危険な体験をしたことがあるからこそ、誰よりも事故の恐ろしさを知っていて、そして誰よりも重機の運転が上手くなるんだろうなと思いました。危険な思いをするのは嫌だけど、自分もあれくらい重機を上手に運転できるようになりたいと思い、夏休みの講習で免許を取りたいと思いました。

4つ目は、建設業界の方たちとの意見交換会です。公務員の方、建設業界の方々からお話を伺って、分からなかったことがたくさん分かりとても有意義な時間になりました。質疑応答の時間では、自分たちの質問に建設業界の方々が丁寧に説明してくださり、今まで自分が考えていた建設業界の3Kと呼ばれるものや、嫌なイメージがきれいに消え去り、今まで以上に憧れを感じるようになりました。

現場見学会が終わった後も、建設業の素晴らしさについてずっと考えていました。自分が作ったものが半永久的に後世に残っていく嬉しさ、人の役に立てるということ、仕事のやりがいなど、挙げればきりがありません。私は、来年度にはもう進路を決めて卒業しなければなりません。まだ漠然としてはいますが、なんとなく就職したいと考えています。今回の意見交換会では、自分の今後の進路、就職先を決定するうえで、きっと役に立つと思います。建設業なら自分にも大きなことができるかもしれない。自分が作った道路や建物が、他人の生活に役立っている喜びが実感できるかもしれないと思えるようになりました。このような機会を与えて下さった先生方、建設業界の皆さんには、本当に感謝しています。



現場見学会の感想



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 小村 智大

11月6日の現場見学会では、最初に船津町にある工事現場へ行きました。そこで、ドローンを利用した最先端の測量技術を学ぶことができました。ドローンの操作を見るのは初めてでした。ドローンを使って測量すれば、自分が学んでいるような測量も、一瞬でできるとしたらとても便利なものだと思います。最先端の測量を間近で見ることができ、とても貴重な体験をすることができたし、この技術がどんどん発展していけば、将来はすべてコンピューターに任せて測量することができるようになると思いました。

また、女性用トイレを見学させていただきましたが、とても広く清潔感があり使いやすいそうだったし、女性しか入れないように鍵がついていたのでとても良いと思いました。

次に見学したのは斐伊川放水路です。斐伊川放水路は、斐伊川が氾濫しそうになった時に放水路を使って神戸川に水を流すものです。大雨が降って放水路に水が流れているところを見て、こんなにすごいものだったとは知りませんでした。知れて良かったです。

大型機械の搭乗体験もしました。すごく大きいダンプカーに乗りました。エンジンの音はとても大きく、こんな物を運転するためにはどんな資格が必要なのか気になりました。実際に搭乗するととても楽しくて、また乗ってみたいと思いました。何年も重機に乗っている人のショベルカーの運転はとてもすごかったです。普段現場ではしないようなとてもすごい運転技術を見てとても驚きました。何年も重機に乗っている人でも何回も命の危険を感じたことがあるそうです。何年もやっていると慣れから注意力がなくなってしまうそうです。あんなに大きいダンプカーに乗ったのは初めてでしたし、この業界に入らないとできない経験でもありとても良かったです。

建設業界の方々との意見交換会もありました。僕が持つ土木のイメージは、きたない、きつい、つらいなどの悪いイメージばかりですが、若手社員や中堅社員の人の話を聞いてきついこと、つらいことはあるけれど、それ以上に作っていたものが完成した時の達成感があることなど、良いこともあることを聞くことができ土木に対するイメージが少し変わりました。土木の仕事に就いたときに必要になる資格をこれからどんどん取っていきたいと思いました。まだ土木系に就職するかは分からないけれど、確実に土木のイメージも変わったし土木の仕事もいいことがあるんだなと思いました。いつかまた、土木の現場などを見学したいと思ったし、もっと土木について知りたいと思いました。



現場見学会の感想



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 加村 一 樹

僕は工事現場の見学をしてたくさんの重機や機械が使われていてすごいなと思いました。見学して特に驚いたことは、ドローンという機械で測量しておられ、すごく便利だなと思いました。このドローンという機械はラジコンみたいに動かして空から測量するというのです。実際にやってもらうと、すごく高い位置まで飛んで行き、そこから測っておられました。

斐伊川放水路にも見学に行きました。普段は入れないようなところに入らせてもらい、とても貴重な体験になりました。洪水になったらどのように水を抑えるかなどを知ることができました。放水路ができる前はたくさんの被害があったことも聞き、放水路がなければ自分たちも大きな被害にあったと考えると恐いと思いました。

午後からは重機に乗らせていただき普段から重機に乗っておられる方の変なことを知ることができました。乗らせてもらう時はとても丁寧にやり方を教えていただいて、すごく嬉しかったです。最初はすごく緊張しましたが、説明を受けながら乗っているととても楽しく、また乗ってみたいくなり、将来はこういう仕事に就くのもありかなと思いました。仕事で死にそうになったこともあると言われて、やはり土木の仕事は大変だなと思いました。

意見交換会というものにも参加させていただき、しっかりと話を聞くことができました。土木についてお話いただいて勉強になりました。自分は将来、工事現場の監督になりたいので、そのことについても教えていただきました。そのためには、今のうちからたくさんの資格を取っておくことが必要だなと思いました。今は、来年の測量士補を取るために勉強しています。また、今働いている方々の話も聞くことができました。話を聞いてみると、土木の大変さや自分が作った構造物が完成した時のやりがいなど、たくさんのことが土木の仕事にはあるんだなと思い、自分もこういう仕事に就きたいなと思うようになりました。だいたい十年間くらい働いたら、現場監督になれると聞き驚きました。もっと働かないとなれないと思っていたからです。この意見交換会は、就職する人にとってすごく勉強になったし、実際に土木で働いておられる人からなかなか話を聞くことができないので、よかったと思いました。

自分は今、土木の仕事に就きたいなと思っています。工事現場に行き自分の目で見たり、今まで知らなかったことを学び、意見交換会でたくさんのことを聞いたので自分も将来土木の仕事に就きたいなと思いました。東京オリンピックの開催にあたり、これから土木の仕事が増えてくると思います。自分もこの日本に貢献できるような大人になりたいです。



現場見学会の感想



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 對 間 真 奈

11月6日（金）、私たちは1日現場見学という貴重な体験をさせてもらいました。最初は船津町の方へ行き、斐伊川の堤防工事の見学をしました。3DのCADやドローンなど初めて見る最新技術が多くてびっくりしました。3DのCADは、立体に現場が映し出されていて、私たちでも分かりやすくとても見やすかったです。ドローンは空に飛ばし空から道路を見て測量してくれるすごく便利な機械です。小さいリモコンみたいなもので操作していて、これなら誰もが使えそうだと思います。この現場で一番驚いたことは、女性用トイレの設置です。今の土木に対するイメージは女の技術者が少ないと思っています。現場には男の人がすごく多い中、その現場には広くてきれいな女性用トイレがありました。中には水洗トイレがあり、長い鏡までありました。ドアノブにはカギと暗号キーがあり、すごくいいトイレだと私は思いました。今はまだ設置している現場は少ないけど、これからは女性用トイレが当たり前になる決まりになってほしいです。

次に、私たちは斐伊川放水路に行きました。そこは国土交通省の方々管理されており、普段は管理室には誰もいないと聞いて驚きました。その放水路はすごく広くて深かったです。そこではライブなどもできると聞いてすごく最適な場所なんじゃないかなと私は思いました。

お昼ご飯を食べてから、私たちは重機の搭乗体験をしました。私は大型ダンプトラックに乗りました。見たことないぐらいの大きさでびっくりしました。タイヤの大きさは私の身長より高くて感動しました。乗ってエンジンをかけてみるとすごい振動が来ました。ボタン1つで大きなものが上がったり下がったりするので反対に怖かったです。このような大きな重機を操作するのは初めてだったので、最初は不安だったけど乗っているうちにだんだんと楽しくなってきました。板倉重機の方がドラグショベルに乗っていろいろな技を披露してくださいました。工事現場で砂などを拾うというイメージしかなかったので、こんな使い方もあるのだとすごくびっくりしました。また、そこまで乗りこなせておられることに本当にすごいなと思いました。

最後は意見交換をしました。事前のアンケートに従った意見交換でしたので疑問に思っていることや、聞きたいことなどが聞けたのでとても良い時間だったと思います。この現場見学を通して分からなかったことや知りたいことがたくさん知れてすごく充実した1日でした。また、今まで以上に土木のことに興味を持つことができました。



次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を 実施して感じること(考察)

出雲農林高校環境科学科2年生を対象にした現場見学会は、今年度で3回目となりました。このたび、高校卒業後の進路の状況について、現場見学会に参加された生徒の皆さんに加え、現場見学会を実施する前の平成21年度から平成25年度の4か年度の生徒を含めて、その状況について調査してみました。

高校卒業後の進路の状況は、進学、就職それぞれの方向に進まれています。就職された方の就職先に着目して結果をまとめてみました。

就職先として建設業関係に進まれた方の割合は、第1回現場見学会に参加された生徒の皆さんが卒業された平成26年度が11人(就職者の5割)、そして今年度卒業予定者の建設業関連への就職内定者が11人(同約5割)と、調査対象とした平成21年度以降の数年度と比較すると飛躍的に増加してきています。

こうした数値の現れは、道路工事や河川工事などの現場見学会を通して、そこで働く技術者から技術的な話に加えて、ものづくりへのやりがいなど体験談を聞くことができることや、建設機械の搭乗体験、そして意見交換会では、知りたいこと、聞いてみたかったことが明らかとなり、今まで以上に建設業への興味や魅力を持っていただいた成果であると評価したいと思います。

今日、建設業界の若手技術者不足は深刻な問題となっています。

この現場見学会を引き続き実施していくことで、少しでも多くの若者が建設業界への入職を希望して、これからの建設業界を担ってくれる大きな力となってくれることを期待し、加えて建設業の魅力を若者たちに十分に伝えていけるよう、現場見学会の内容を工夫していくなど更なる充実を図っていききたいと思います。

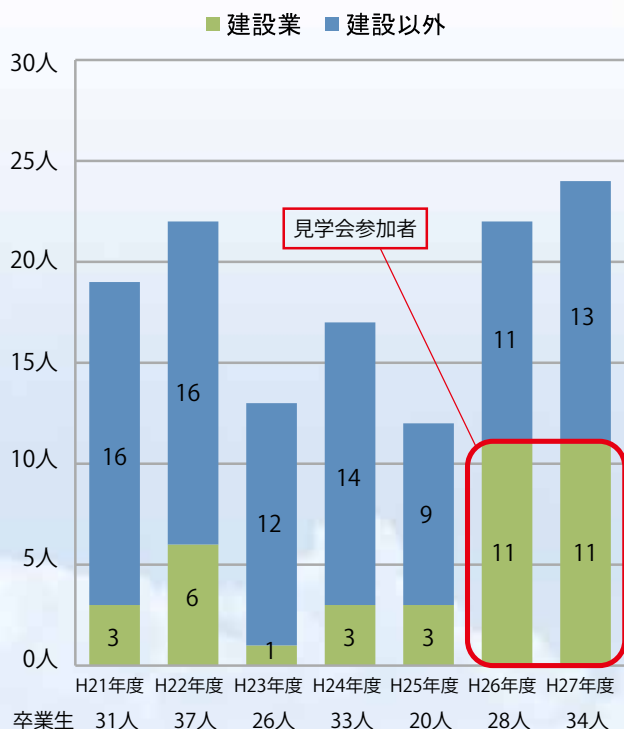


図1:現場見学会実施後の「就職先」の状況



図2:現場見学会実施後の「進学先」の状況

地域貢献事業報告

2015 道路清掃

地域貢献委員会 委員

(株)御船組 御船善弘



今年度も引き続き地域貢献活動の一環として、平成 27 年 7 月 23 日に出雲縁結び空港のアクセス道路のクリーンアップ作戦（草刈り等）を実施しました。

当日の朝は台風の影響から大雨で開催が危ぶまれましたが、『来県される方への「おもてなしの心」で、島根の空の玄関口をきれいにしたい』という会員一同の思いが天に届き、スタート時には雨が上がり、無事にクリーンアップ作戦を実施することができました。

本年も出雲県土整備事務所の皆様と一緒に清掃活動を実行する予定でしたが、前夜から降り続いた大雨の影響の為、水防業務に急遽あたらなければならなくなり、残念ながら参加を断念されることになりました。当日は一緒に活動はできませんでしたが、クリーンアップ作戦を実行するにあたり、準備計画段階から出雲県土整備事務所の皆様には大変お世話になりありがとうございました。

今年も、作業予定地は昨年同様かなりの雑草が生い茂っていましたが、昨年実施した経験を踏まえ参加者全員一致団結し作業した結果、2 t ダンプ 4 台分の雑草等を回収し、とても綺麗で気持ちの良い「島根のおもてなし道路」にすることができ、本年度のクリーンアップ作戦も大成功を収めることができました。

クリーンアップ作戦が始まって今年で 16 回目になりますが、当初より空き缶や空き瓶・タバコなどのポイ捨てが年々減少しているのは作業を通じて実感しています。これはボランティア活動を通じて街全体をきれいにすると共に、こうした活動を目にされた方々に少しでも我々の思いが伝わった結果、マナーの向上の輪が広がったのではないのでしょうか。今後も地域の環境美化の重要性を認識し、こうした活動を継続していきたいと考えております。

最後になりましたが、今回の清掃活動にも(株)原商様・(株)リョーキ様・オーケーリース(株)様よりダンプの提供と清掃活動へのご参加、出雲市役所様より処分先の手配等をして頂きましたこと深く感謝申し上げます。

クリーンアップ作戦にご参加された皆さま大変お疲れ様でした。



道路清掃内容

場 所	一般県道出雲空港線	
参加者	青年部会会員	34 名
	オーケーリース(株)	2 名
	(株)リョーキ	1 名
	(株)原商	1 名
収集量	2 トンダンプ	4 台

経営研究事業報告

2015 意見交換会

経営研究委員会 委員

(有)川角建設 川 角 宣 広



「2015 意見交換会」を青年部会経営研究委員会が担当し、平成 27 年 8 月 28 日（金）に出雲建設会館において開催致しました。

出雲県土整備事務所より都市整備課 係長 荒木 俊輔 様、土木工務第三課 係長 行武 宗軌 様を講師にお迎えし、ご講演をいただきました。

最初は、荒木係長様に「出雲のくにの神門通り 祈りの道、そして出会いの道」と題して、ご講演いただきました。大社神門通り整備事業は、計画段階から数回のワークショップを通じ、発注者・住民・施工業者など多くの方々が参加し進められた事業であった事、また、その中でご苦勞された事や住民・観光客とのコミュニケーションの方法、重要性についてお話をいただきました。

続いて、行武係長様より「土木行政に 17 年携わってきて思うこと」と題し、ご講演いただきました。17 年間土木行政に携わった中で変化があった事、工事現場への意見や要望、また工事成績評定について、行政が行っている建設業の魅力発信についてお話をいただきました。

普段、我々が建設工事を行っている中で特に気になっている、住民の皆様とのコミュニケーションの図り方であったり、行政が現場に求めている事、また工事成績評定についてお話いただき大変勉強になりました、今後の工事施工に役立てて行きたいと思います。

講演終了後は、場所を移動し、出雲県土整備事務所より講師のお二方をはじめ 9 名の参加をいただき「意見交換会」後半の部を開催いたしました。発注者・受注者としての意見が飛び交い、普段では、お聞き出来ない話しを伺うことができ、大変有意義な意見交換会となりました。



卒業にあたり



(株)トガノ建設 梶野直宏

平成9年の青年部会創立より19年間在籍させて頂きました。本当にあつという間だったように感じます。在籍中は様々な事がありました。特に印象に残っているのは、創立10周年の記念事業で開催しました、夜回り先生で有名な「水谷 修」氏をお招きしての記念講演でした。当日は出雲市民会館が、学生や市民の皆様で満席となり、大変思い出に残る事業となりました。また海外視察研修では、韓国の建設業団体との意見交換も大変貴重な経験や思い出となりました。他にも様々な経験が出来ました。この経験を今後の活動に役立てたいと思います。最後になりますが、4年間部会長をさせて頂き、任期中は高校生の現場見学会など色々な新しい活動を実施しましたが、会員の皆様のご支援・ご協力を頂き全ての活動において成功する事が出来ました。改めて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。それでは今後、青年部会が益々活躍されることを期待し、卒業のお礼と致します。



(有)ナギラ建工 加納 悟

平成14年度に青年部会に入会し、早いもので卒業を迎えることになりました。その節はいろいろとご指導賜りありがとうございました。当時、建設業界のことが何もわからないまま青年部会に飛び込みましたが、皆さんに快く迎えていただき、業界の青年部会の一員としていろいろな活動をさせて頂きました。この間、業界の先輩を始め同士の皆さんとお金では得ることのできない人と人との繋がりが出来たことは大変良かったと思います。今後は青年部会で培った「志」を忘れることなく進化していきたいと思います。建設業協会青年部会の益々のご繁栄をお祈りしますと共に、部会長始め会員の皆様へ感謝を申し上げ挨拶とさせていただきます。



(有)西尾組 西尾 仁

青年部会設立当初より入会をさせて頂き、長かった19年間。この度めでたく卒業と思ったのだが会員激減緩和の為に、暫くの間在籍をとの事、多くの事を学ばせて頂いた貴重な場所でもある事からいま暫く活動させて頂こうと決心しました。思い出に残る事業は色々あり国道の清掃、海岸清掃、研修視察旅行、親睦会、等々。部会に入会してこそ出来た多くの体験、その中でたくさんの方々との出会いの中で自分なりに精一杯活動させて頂きました。諸先輩方々、事務局の方々、部会の皆様に至らぬ私の事を可愛がって頂き、この日を迎える事が出来ました。本当にありがとうございました。この経験をもとに今後も頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。青年部会が益々発展します事をお祈り致します。感謝。

卒業にあたり



(株)日野組 日野 敏 行

私は、平成9年の青年部会設立当初より入会させていただき、当初は大変戸惑いましたが、会を重ねるごとにいろいろな方々との交流の場を持つ事が出来ました。

事業において、クリーンアップ作戦では出雲県土整備事務所の職員の皆様と一緒に汗を流させてもらったり、工事現場見学会では出雲農林高等学校の生徒の皆様と一緒に普段見ることのできない大規模な現場を見させていただいたり、研修視察では会員の皆様と一緒に海外の工事現場を見させていただいたり、大変よい体験をさせていただきました。

また、部会長をはじめ会員の皆様、事務局の皆様のおかげで、委員長・監事までさせていただき、大変感謝しています。ありがとうございました。これからもいろいろなことに取り組んでいただき、楽しい青年部会であってほしいと思います。また、これで最後ではありませんので、これからも宜しくお願い致します。



中国道路整備(株) 浅 津 和 人

平成18年度に青年部会に入会させて頂いてから早いもので10年の歳月が過ぎ、いよいよ卒業のときを迎えることになりました。

当時まだこの業界に入って1年余りでしたので、右も左も分からず大変不安に思っていました。様々な活動(飲み会)でたくさん経験をさせていただけたこと、また多くの方とこれから先ずっとお付き合い出来る関係を築けたことに感謝しております。今後はこの会での貴重な経験を活かし、これまでいただいたご縁を大切に頑張りたいと思います。

最後に、諸先輩及び会員の方々、事務局の皆様には本当にお世話になりました。青年部会の今後益々のご発展と会員の方々のご活躍をお祈りいたします。



(株)フクダ 船 木 博 之

平成22年度に青年部会に入会させていただいてから早いもので6年間の月日が流れ、いよいよ卒業の時を迎えさせていただくことになりました。

入会后最初に会員交流委員会の所属となり、ほとんどお酒が飲めない私が所属しても良いのだろうか?と不安に思っておりましたが、諸先輩方の温かいご指導のもと無事に4年間担当させて頂きました。その後2年間所属させていただいた経営研究委員会では農林高校生の現場見学会等の企画運営に携わらせていただき、大変貴重な経験をさせて頂きました。

長いようで短い6年間でしたが、これからはこの経験・出会いを糧に業務に励んでいきたいです。最後になりましたが、会員の皆様また事務局の皆様にお世話になりました。誠にありがとうございました。今後の青年部会のより一層の発展を心よりお祈りいたします。

卒業にあたり



昭和開発工業(株) 荒木 克之

早いものでもう卒業という年になりました。青年部会では、色々な役職を経験させて頂き大変学ぶことが多かったように思います。なかでも多くの会員の皆さんと一緒に酒を飲みながら親しくなれたことが、この先の仕事をしていくうえで一番の財産だと思っています。また県の青年部会、そして中国地方建設青年交流会への参画においても多くの人たちと出会うことができました。仕事への取り組み方も各県の事情で様々であり、感心したり、同情したり……。でもやはり一番強く感じたことは、出雲地区の青年部会で実践している内容は県や中国の中でも前の方を走っているなということです。中身の濃い事業、県内で最も多い会員数という恵まれた環境にある出雲地区建設業協会青年部会の更なるリーダーシップを祈念します。今までありがとうございました。



(有)間壁組 間壁 和弘

平成9年青年部会設立当初より入会させて頂き、早19年。大変お世話になりました。この青年部会は他の会とは違って同業者の方々ばかりなので公私にわたり色々な話ができとても勉強になりました。また、2年間でしたが広報委員長として会報誌「青雲」の発行に携わることができ多くのことを学ばせて頂きました。そして、青年部会の活動の中で本当に多くの皆様に出逢うことができ、同時期を一緒に過ごせたことは、何よりの財産になったと思います。

また、先に卒業されたOBの方々、会員の皆様、事務局の皆様、本当に有難うございました。最後になりましたが、青年部会の益々の発展と皆様のご活躍をお祈りしています。



(有)山根建設 山根 強

平成9年の青年部会設立の年に入会させて頂き19年間お世話になりました。

青年部会に入会して沢山の諸先輩方、現役会員の皆様に出会えたことが一番の財産ではなかったかと思います。諸先輩方からは様々な場面でご指導頂きました。また、メンバーの皆様と委員会や懇親会などで話しをする中で参考になることや勉強させて頂くことが沢山ありまして、日々の仕事での悩みや課題など共通の話題で意見交換をしたり、青年部会のメンバーだから話し合えるととても貴重な場でもありました。

地域貢献委員会の委員長をさせて頂いた時は委員会の皆様に事業計画から実施まで意見やアイデアを出して頂き無事に事業を終えることができました。青年部会は各社の代表で出かけておられます。その若い頭脳が集まれば必ず良い事業ができるのだと青年部会のすばらしさと結束力を改めて感じました。

これからも出雲の青年部会らしい熱い事業をメンバーの皆様の頭脳と行動力で続けて頂きたいと思います。

青年部会の皆様、事務局の皆様、19年間本当にありがとうございました。青年部会の益々の発展を心からお祈りいたします。

— 新入会員紹介 —



(株)ダイニ 江 角 洋 介

今年度より青年部会に入会させていただきました(株)ダイニの江角 洋介です。

大学卒業後、大阪の包装関係の会社に7年間勤務しておりましたが、平成17年に帰郷しダイニに入社しました。

入会してまだ10ヶ月程ですが、この間色々な事業に参加させていただきました。

中でも印象に残っている事業は、上塩冶スポーツセンターと斐伊川放水路で行われた土木の日の記念イベントです。

私は重機と記念撮影をする事の出来るコーナーを担当しておりましたが、普段はテレビや遠くからしか見ることの出来ない重機に直に乗り込み、操作レバーなどを触って喜ぶ子供達の笑顔は、生き生きとしてとても印象的でした。

催し全体を通し、地元の方々に建設業界をより一層知って頂けたのではと感じております。

今後も様々な事業を通じて、地元の方々、そして子供から大人まで、建設業界にもっと関心を持って頂ける様な活動のお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

慣れないことも多く、至らない点もあるかと思いますが、地域と建設業界発展のために、微力ながら尽力して参りたいと思っておりますので、ご指導の程よろしくお願ひします。



岩成工業(株) 西 村 善 文

今年度から青年部会に入会させていただきました岩成工業(株)の西村善文です。

建設業に従事して約20年になります。所属は土木部でしたが、公共工事の減少により担当工事が無い状態が1年以上続き、最近では建築工事の見積などが主な業務になっています。

建設業界を取り巻く状況は、長引く景気低迷により、民間による設備投資の減少、そして公共事業の削減により厳しさを増し、建設業の社会的なイメージや若手の入職率も悪くなる一方です。しかし社会基盤整備上、建設業は無くしてはならない存在です。

地域の社会基盤整備を担う建設業者として住民の方々から信頼され、行政と地元住民が必要とする建設業界を青年部会の活動を通して社会にアピールしていけたらと思います。

ご迷惑をお掛けする事もあるかと思いますが、精一杯頑張りますのでどうかご指導のほどよろしくお願ひします。

「土木の日」に参加して

会員交流委員会 委員長

(株)三原組 三原 惇 志

トピック

「土木の日(11月18日)記念イベント」に 会員交流委員会がスタッフとして協力しました。

平成27年11月14日(土)、上塩冶スポーツセンター及び斐伊川放水路において開催された「土木の日記念イベント」に、会員交流委員会が『なぜトンネルはくずれない?』『土のうの強さのヒミツとは?』など土木の基礎を模型で解説するブースのスタッフとして協力しました。土木のヒミツに興味深く見聞きする子ども達を前に、スタッフの説明には熱がこもっていました。

参加した子供たちには、将来の建設業界を担ってくれることを期待したいものです。



編集後記

我々建設業界が抱えている問題の中のひとつに担い手の確保・育成があります。この事には多くの会員企業の皆さんも直面されていることと思います。我々青年部会でもこの問題を克服するための一つとして『次世代建設就業者育成事業』を行い今年度で3回目となりました。

建設技能労働者の年齢をみると、55歳以上の熟練工が3割を超えて10年後には大半が引退すると言われています。そして、若年入職者が減少し離職者が増加している現状では、次世代への技能継承が難しくなっている状況です。

若年者が建設業界への就職を避ける理由として、給与水準の低さや休日の少なさをよく耳にしますが、現在の建設業界の環境の中で、個々の企業の努力でどれだけ対応できるでしょうか?

労務単価が上昇したことなど明るい材料はあるものの、それだけでは克服できないのが現状ではないでしょうか。

平成26年6月に施行された品確法の改正に続き、平成27年4月に施行された入契法と建設業法の改正(担い手3法の改正)では、官民一体となった担い手の確保・育成、生産性向上に取り組むことが示されました。我々地方の建設業者が、中長期的な経営・雇用計画をたてる事が出来るよう、急激な増減の無い公共事業予算の確保、工事量の偏りを解消するための施工時期の平準化は、直ちに取り組んで頂くことを切に願うとともに、我々も鋭意努力することを決して忘れてはならないと改めて思ったところです。

最後になりますが、青雲18号の発行にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

また、今年度を最後に卒業される皆様には長年の活動に対し敬意を表します。今後ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

総務広報委員会 副委員長 青 砥 正 人